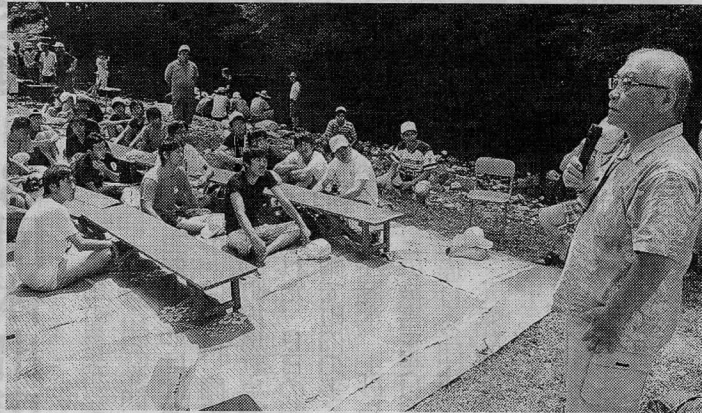


# 清流復活へ実りの20年

一関大東の下内野自治会

## 「石磨き」や水質調査

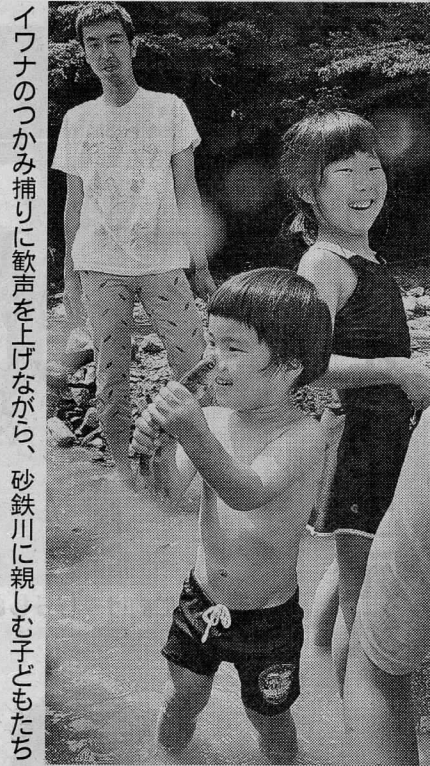
### 住民と日大生、活動共に



砂鉄川河川敷での交流会で、河野英一学部長(右)の話に耳を傾ける学生と住民

一関市大東町の下内野自治会(勝部欣一会長)は11日、地元の砂鉄川河川敷で「第20回石磨き大会」を開いた。カジカが生息できる水生環境の復活へ、日本大と共同で1994年から取り組み、今では川を生かしたユニークな地域づくりとして注目を集める。石に付いた有機物を流す石磨きやイワナのつかみ捕りなど、住民と学生が共に川に親しみながら、交流の継続と環境保全を誓った。

下内野地区の全世帯 彰などごまごまな受賞と日本大の地域環境保 を重ねた歩みを回想。 全学研究室の学生ら計 「日本の自然は農業に 約130人が参加。河 携わる皆さんあってこ 川に関する学生の研究 所。素晴らしい自然を 発表に続き、特製の「古 守ろう」と呼び掛けた。 縄たわし」を使った石 同大大学院の吉野雄 磨きがスタート。水質 介さん(23)は「今後も 調査も行い、清流化へ 40年、60年と交流を続 心一つにした。



イワナのつかみ捕りに歓声を上げながら、砂鉄川に親しむ子どもたち

交流会では、長年指 導に当たる日本大生物 資源科学部の河野英一 学部長(67)が「20年前、 講演会をきっかけに地 区の方に『石でも磨き つか』と何げなく提案 したことが、ここまで 続いた」と、環境大臣表

け、自分たちの研究成 内外との交流にもつな 果を皆さんに還元した かった。小さな集落で い」と意欲。開始時の もみんな力で合わせ 自治会長だった勝部昌 れば、一つの興味が本 平さん(70)は「活動を 物になる」と思いを込 通し視野が広がり、国 めた。